

■恒藤恭 法学者。京大事件を乗り越え、法哲学を中心に業績多数、戦後も多方面に発言して言論界をリード。

つねとうきょう

初の対等条約1888＝ 島根県松江市で、旧津和野藩士の出で県の官吏となった井川精一の第五子・次男に生まれる。

帝国憲法発布1889＝ 1歳： 厳格ながら漢詩にも造詣深かった父と浜田の町人出の控え目で優しい母に、8人兄弟とともに育てられ、

日清戦争始・1894＝ 6歳： 自宅に近い県師範学校付属小学校尋常科に入学、まもなく松江大水害に遭遇。

八幡製鉄始・1897＝ 9歳： 本好きで知られ、本屋に通う。

子規句歌革新1898＝10歳： 尋常科を修了して高等科に進む。後に結核の権威となる春木秀次郎と親交。姉兄の影響で巖谷小波・尾崎紅葉の作品や雑誌{少国民}に熟中、

ピアノ国産化・1900＝12歳： 小学校が新築移転。

田中正造直訴1901＝13歳： 卒業して県立第一中学校に入学、柔道部に属したほか諸スポーツに親しみ、水彩画を始め生涯の趣味となる。異色の校長石原初太郎が就任、新渡戸稲造の講演会が開かれる。

日比谷公園・1903＝15歳： 姉の夫が早世して衝撃を受け、英文の聖書を購入、友人の案内でイギリス人宣教師の聖書研究会に出席。

日露戦争始・1904＝16歳： {ハガキ文学}にペンネームで随筆・短歌・俳句などを投稿し、入選を続ける。一家で市内別地に転居。

日露戦争終・1905＝17歳： 3番で卒業するが、健康が優れず上級進学を断念して静養、諸療法を試みながら小説・童話にも挑戦。

満鉄発足・・・1906＝18歳： 諸誌紙へ投稿を拡大、英文学作品を原書で読んだり、植物栽培などで規則正しい生活を送るが、

韓国反日暴動1907＝19歳： 健康は好転せずやせ衰えるも投稿を続け、{都新聞}の懸賞小説に「海の花」が1等、賞金を得て連載される間、兄の勧めで、医師から従業員まで全てセブンデーアドベンチスト教会信者で食事・マッサージ療法で知られた神戸衛生院に入院、後の白樺作家郡虎彦と出会い、病状も回復して松江に戻り、自宅療養。

アヲヲ創刊・1908＝20歳： 徹底した食事療法で健康を取戻すと上京の念強まり、賞金残金・入賞金・観世こよりで得た金もあって、父の病没を機に、従兄弟で詩人の増野三良を頼って上京、{都新聞}の文芸部記者見習となり、取材の合間に図書館通いなどするうち、第一高等学校志願者募集締切の日の官報を偶然目にすると、即応募して合格。矢内原忠雄らと同室になって{南寮タイムス}を発刊。同期ではまず菊池寛と交わり、姉の嫁ぎ先の牧師訪問を兼ねて関西旅行。友人とスケッチ旅行。{南寮タイムス}号外で大逆事件判決を報じ、弁論部主催の特別講演会で徳富蘆花の「謀叛論」を聞く。{萬朝報}の懸賞小説に「南寮日記」が入選、掲載に当って本名が出てしまい物議を醸すも、投稿は続く。芥川竜之介との親交が始まる。

伊藤博文暗殺1909＝21歳： 一高文科を1番で卒業(芥川が2番)、京都帝国大学法科大学に進み、寄宿舎に長崎太郎と住む。まもなく京大沢柳事件が起き、教授罷免に強硬に反対する佐々木惣一の影響を受ける。

韓国併合・・・1910＝22歳： 失恋して自暴自棄になった芥川を、夏期休暇中に松江の実家に迎え、立ち直らせる。

大逆事件判決1911＝23歳： 増野三良が死去。京大政治学科を3番で卒業、大学院に進み、恒藤規隆の長女と結婚して恒藤姓となる。スケッチ等の趣味を捨てて研究にいそしみ、長男が誕生。

明治天皇没・1912＝24歳： 次男が誕生。収入源でもあった投稿生活も終えて、以後研究に没頭。同志社大学法学部教授に就任。

大正政変・・・1913＝25歳： 疫病で長男を失う。勉学熱心だったお手伝いの佐久間千代を同志社の聴講生とする。土田杏村と出会う。

21ヶ条要求・1915＝27歳： *論文集「批判的法律哲学」を処女出版して注目される。杏村が上田で開校した自由大学の講師もつとめる。

民本主義・・・1916＝28歳： 同志社を辞して京都帝大経済学部助教授となる。以後、次々と論文を書いて発表する。

本格政党内閣1918＝30歳： 同僚を辞して京都帝大経済学部助教授となる。以後、次々と論文を書いて発表する。

ベル仁条約・1919＝31歳： 長女が誕生。

大暴落・・・1920＝32歳： 渡欧、パリで末川博に迎えられ、欧州各地を美術見学の後、ドイツのハイデルベルク大学に学び、

原敬首相暗殺1921＝33歳： 渡欧、パリで末川博に迎えられ、欧州各地を美術見学の後、ドイツのハイデルベルク大学に学び、

水平社結成・1922＝34歳： ベルリンを経てキール大学に籍を置いて研究する間、イギリスや東欧を旅行、

関東大震災・1923＝35歳： パリに戻ってフランスの各地を巡り、アメリカへ渡って見聞した後、帰国。以前の研究発表生活に戻る。

護憲三派圧勝1924＝36歳： 次女が誕生。芥川竜之介が自殺、諸誌に追憶文を発表。労働農民党委員長大山郁夫が暴漢に襲われ、民衆大会で河上肇と事件を証言しようとして警官に阻止される。

治安維持法・1925＝37歳： 法学部勤務となり、法理学講座を担当。河上肇が辞任に追い込まれる。

円本時代始・1926＝38歳： 教授に昇格。

金融恐慌・・・1927＝39歳： 三男が誕生。

共産党事件・1928＝40歳： この年、滝川幸辰が京大事件の契機となる講演。

世界恐慌・・・1929＝41歳： 田辺元・佐々木惣一・滝川幸辰・末川博らと{哲学科学の会}を発足。

海軍軍縮条約1930＝42歳： 滝川幸辰の著書が発禁となり、鳩山一郎文相が辞職を強要、総長・法学部教官全員が辞表を提出して抵抗するも、休職処分が強行され、辞表不受理組で懐柔されるも初志を貫いて免官、辞表受理された末川博とともに大阪商科大学に招かれて講師となり、立命館大学の講師も兼務の一方、法理学研究会を始める。

満州事変・・・1931＝43歳： 土田杏村が死去。京大事件の屈辱をバネにひたすら研究と発表に打ち込み、

五一五事件・1932＝44歳： 台北帝国大学で集中講義。*一高同級生山本有三の少国民文庫第一巻に「人間はどれだけの事をして来たか」を書下ろし後、「法の基本問題」「法的人格者の理論」を刊行、恒藤法哲学を確立する。

国際連盟脱退1933＝45歳： 河合栄治郎の{学生叢書}にも執筆。期待の弟子加古祐二郎が死去。矢内原忠雄が東大辞職に迫込まれる。

帝人疑獄事件1934＝46歳： 岳父が死去。立命館大学から法学博士号。

二二六事件・1936＝48歳： 平賀肅学で河合栄治郎が東大を罷免される。

日中戦争始・1937＝49歳： 自宅用地が都市計画画接収となり転居。末川博とともに大阪商科大学教授に昇格。

健保+総動員1938＝50歳： 実母が死去。

第二次大戦始1939＝51歳： 創価学会検挙1943＝55歳： 時局から法理学研究会を中断。

大政翼賛会・1940＝52歳： 年金+総武装1944＝56歳： 河合栄治郎が死去。親しい教え子淵定も失う。

日米開戦・・・1941＝53歳： 敗戦・・・1945＝57歳： 末川博が立命館大学学長となる。

・・・1942＝54歳： 河上肇が死去。*大阪商科大学学長になると、画期的人事刷新を断行。兼任で京大教授に復帰。{世界}{文芸春秋}はじめ総合雑誌への発言が主となり、以後、ジャーナリストとして戦後の言論界をリード。

創価学会検挙1943＝55歳： 時局から法理学研究会を中断。

年金+総武装1944＝56歳： 河合栄治郎が死去。親しい教え子淵定も失う。

敗戦・・・1945＝57歳： 末川博が立命館大学学長となる。

新憲法公布・1946＝58歳： 河上肇が死去。*大阪商科大学学長になると、画期的人事刷新を断行。兼任で京大教授に復帰。{世界}{文芸春秋}はじめ総合雑誌への発言が主となり、以後、ジャーナリストとして戦後の言論界をリード。

極東裁判決・1948＝60歳： 菊池寛が死去。

三大事件・・・1949＝61歳： 日本学術会議会員・学士院会員。大阪市立大学新設に伴い同学長を兼任。

朝鮮戦争始・1950＝62歳： 先見性に満ちた「市立大学の構想」を発表。法理学研究会を復活。

独立回復・・・1951＝63歳： 憲法・講和・安保問題はじめ、時局に応じて膨大な発言をし続け、

なべ底不況・1957＝69歳： 大阪市立大学学長を任期満了。

インストラメン・1958＝70歳： 大学以来の親友田村徳治が死去。大内兵衛・茅誠司・清宮四郎・宮沢俊義・矢内原忠雄・湯川秀樹・我妻栄と憲法問題研究会を設立、以後、憲法擁護の発言を続ける。

安保闘争・・・1960＝72歳： 急性肺炎となりストレプトマイシンで助かるも以後難聴。

全国総合計画1962＝74歳： 日本法哲学会理事長。滝川幸辰が死去。

東京リボルヴ1964＝76歳： 岩波新書「憲法問題」。

大学紛争始・1965＝77歳： 大学紛争始・1965＝77歳： 佐々木惣一が死去。

いざなぎ景気1966＝78歳： 文化功労者表彰。

美濃部都知事1967＝79歳： 自宅で倒れ、心不全で没した。